

日本航空株式会社所属
ボーイング式B-747-200型JA 8127
に関する航空事故報告書

昭和52年3月1日

航空事故調査委員会議決（空委第11号）

委員長	岡田 實
委員	山口 真弘
委員	諏訪 勝義
委員	上山 忠夫
委員	八田 桂三

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747型JA8127が、昭和51年10月10日同社の定期11便としてバンクーバー国際空港を離陸し、東京国際空港に向け飛行中、旅客の1名が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

昭和51年10月12日 事実調査

1.3 原因関係者からの意見聴取

原因関係者死亡につき意見聴取を行わず。

2 認定した事実及び認定した理由

JA8127は、10月10日旅客174名、乗員23名がとう乗し、10時26分（日本標準時。以下同じ）バンクーバー国際空港を離陸し東京国際空港に向った。

142001

同機は高度35,000フィートを正常に飛行中、13時50分ころ旅客から同行者が化粧室にいったまゝ戻ってこないと客室乗務員に申出があった。

客室乗務員は化粧室を調べたところ、旅客の様子が異常なので、とう乗中の旅客の医師に協力を求めると共に機長に報告を行った。13時55分ころアラスカ西方の公海上空で、とう乗中の外国人医師により同旅客(58才,男)の死亡が確認された。

同機は20時04分東京国際空港に着陸した後、東京都監察医による検案が行われその結果は「心筋硬塞」による病死であった。

なお同行していた夫人の話によると、同旅客は昨年8月より心臓病を患い、本年5月には手術を行ったとのことであり、当日は特に気分が勝れない様子であった。

3 結 論

原 因

本事故は、JA8127にとう乗中の旅客が「心筋硬塞」により死亡したことによるものと認められる。

142002